

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200841		
法人名	株式会社スタッフ・アクタガワ		
事業所名	スタッフ・アクタガワ ケアセンター有東坂 グループホーム		
所在地	静岡県静岡市清水区有東坂一丁目224-45		
自己評価作成日	平成25年9月27日	評価結果市町村受理日	平成26年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvoNoCd=2294200841-008&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvoNoCd=2294200841-008&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成25年10月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアセンター有東坂は1階が小規模多機能居宅介護・2階がグループホーム1ユニットの併設施設となっております。近くに公園もありお客様と一緒に気軽に散歩に行け、機能訓練を図りながら気分転換にも繋げることができます。1階・2階共同で畑スペースを設けており、野菜を育てる所から始め収穫作業を一緒に行いながら楽しんだりもしています。1階では小規模多機能という特徴を活かし、通い・訪問・泊りとおお客様のニーズに合ったサービスの提供を行うことが出来ます。2階のグループホームでは自宅に住んでいた時のような温かい雰囲気の中でお客様と一緒に居室・フロアの掃除や洗濯物干し等を行い、地域の催し物に参加し社会との関わりは大切にしながら地域密着型を目指し取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街に建ち、玄関を開けると季節の花を活けた和みの空間が出迎えてくれる事業所です。特別な取り組みではなく個々の利用者をもつ生活力を引き出していきたいと考え、掃除や洗濯、食事やおやつ作りなどに向き合う時間を大切にしています。有する力を発揮してもらうためには多少のリスクも伴いますが、生活を支援することで利用者が生き生きと輝くことを職員も実感し意欲に繋げています。また、家族の面会が多く、毎月の「有東坂通信」を手渡ししながら交わされる会話で信頼関係が構築されています。事業所まつりと毎月14日の「アクタガワの日」を活用し、さらに地域との連携を培っていきたくと考えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に職員に対し理念を掲示し、唱和を行い職員に周知させ会議時にチーム間で確認を行っています。	朝礼にて基本の挨拶とともに唱和を行っています。チーム会議では日頃の様々なケアの場面で「笑顔でサポート」できていたかを振り返り、話し合う機会をもっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域で行われているお祭りや催し物に足を運ばさせていただいています。地域の行事予定については運営推進会議を通じ教えていただき参加しています。	事業所祭りではお惣菜販売やヨーヨーすくい、蕎麦打ちを披露するなど、地域の人たちに足を運んでもらえる企画を工夫しています。また、敷地内にある地域の資源回収集積所を進んで清掃する職員もいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月14日を地域貢献活動の「アクタガワの日」として近隣を清掃しています。また、近くの職場体験場としての受け入れも行っていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第3土曜日に定期開催しています。その時に色々なアドバイスをいただき、それを活用できるように取り組んでいます。	運営推進会議の開催も定着し、地域のリーダーからは防災情報や公園の祭り、どんど焼き等の行事案内をもらえ、好意的な対応を受けています。	家族会は年2回開催されていますが、運営推進会議にも家族参加があることでさらに情報共有が進むことを期待しています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括の方に運営推進会議に参加していただきその場を通じて事業所の取り組みについて伝えさせていただいております。	月に2回、介護相談員の受け入れがあります。職員とは異なり、第三者として利用者から話が聴ける人がいることは大切なことと感じています。また、利用者の中には訪問を楽しみにしている人もいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないよう職員には会議時に周知・徹底させています。居室の施錠についてはお客様の判断に委ねていますが、鍵をかけられることは今の所ございません。	法人内での研修に参加し、会議の場で報告する時間を設けています。スピーチロックは忙しい時にはつい発してしまいがちであると認識し、改善工夫について話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成し常に注意して取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通じて成年後見人制度について学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約時には重要事項説明書等の必要書類を用いてご説明・ご質問の時間を設けご理解・ご了承を頂いてから署名・捺印をお願いしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	偶数月の運営推進会議や年2回の家族会・お客様アンケートを通じてご意見をいただき検討に努めています。	日頃の面会時に率直な意見を聴けることが多く、大切な機会と捉えています。有東坂通信を手渡す際に「外出の機会が減ったのでは…」との指摘があり、速やかに企画し喜ばれたこともあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	チーム会議時や業務の際に職員の意見・考えを確認したり、個別面談をして話を聞き反映させています。	定期的に評価面談はありますが、必要と思われる時には随時個人面談を行っています。また、隔月で改善提案が書面で上がる仕組みがあり、職員のアイデアや意見を取り入れています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度毎に個人目標を設定し、四半期毎に評価面談を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修プログラムに基づき、ステップ研修に取り組んでいます。また、社外研修やマナー研修にも積極的に参加し、培った経験を会議時に参加出来なかった職員に教え情報共有を図れています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した際や事業所連絡会に参加し交流が図れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に事前に聞き取り調査・お試し利用をしていただき、お客様に満足していただけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に御家族の方と話し、悩み・要望・相談について伺い、又、お客様の事業所での様子等についての情報共有を図っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所にて提供出来るサービス内容をしっかりと説明し、又、お客様・御家族の方の使いたいサービスをしっかりと把握して情報を提供していきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様に出来るお手伝いをさせていただけるように促し、お客様同士と一緒に楽しめるようなレクリエーションを考え提供していきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お客様の生活歴や日中の様子を話し合い、こちらでの様子をお伝えするだけでなく、写真を渡して家族とお客様が写真を見て話しができるように図取り組んでいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主にご家族様と連絡を取り合い、一緒に外出したりする機会を設けるようにしています。	趣味のちぎり絵や好みのスポーツ新聞を継続している利用者もいます。昔なじみの美容院に通ったり、自宅に帰ったり、家族のサポートとともに関係が継続されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアーにてお客様同士が話を出来るような環境作りをし、一緒にレクリエーションを行うことで支援が図れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	培った関係性を無駄にせず、何か相談事等がある場合には親身になって対応させていただいています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様一人ひとりとコミュニケーションをとることを大切に、話を傾聴し支援に努めています。	日常の会話の中から発せられた言葉や表情の変化から情報収集に努めています。これらの気づきはケアマネージャーが収束しており、ケアプランへ反映されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様からの聞き取りや個々の生活歴情報からサービスに繋げていけるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別対応表や介護経過記録用紙・申し送りノートを活用し現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月チーム会議を行い、カンファレンスの中で意見やアイデアを出し合い、介護計画に反映できるようにしています。	課題や目標を「ケアプラン実施表」に落とし込み、職員個々に日々チェックして、ケアサービスに反映させています。また、これらは会議の場においてカンファレンスが行われ、プランを共有認識する機会ももっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を用い職員間で話し合い・情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助・訪問理美容の手配・イベントの参加取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出時に地域の方々に挨拶をしたり、地域行事の参加を通じ支援が行えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と連携がしっかりと図れています。さらに、御家族様の意向に合わせ状況に応じて通院介助も行っています。	専門医はかかりつけ医を継続していますが、協力医が24時間対応しているため、安心感から協力医に変更する利用者もいます。受診の際は口頭で状況を伝え、結果は通院介助報告書に記録され、申し送りにて周知しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医との連携をしっかりと行い、指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の相談員の方と情報交換を行い、その後の対応方法については主治医に相談して決めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族様と終末期のあり方について事前に話し合い主治医・事業所・家族間で連携を図り支援に取り組んでいます。	過去に1名の看取りはありますが、法人の方針としては医療的行為が必要ない場合での受け入れを基本としています。終末期については、その都度主治医や家族と連絡を密に取り組みたいと考えています。法人の研修では職員の心の在り方を学ぶ機会があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異常時・緊急時対応マニュアルを有し、チーム内研修を通じて対応確認をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に行い、又、災害時には地域の方々に協力していただけるようお願いをしています。	火災や地震などの場面を想定し、役割分担を定めて行っています。ただし、夜勤帯で職員が一人の場合や、とっさの時の判断力が大事であると感じていて、訓練の積み重ねの必要性を感じています。	地域の防災訓練へ参加することにより、地域の一員としての役割を担うとともに災害時の協力体制が築けるよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	チーム内研修時に接遇の実施や外部講師によるマナー研修に参加しています。	排泄の失敗があっても失礼のない言葉遣いができるよう臨んでいますが、礼を尽くしたつもりでも相手によって受け止め方が異なる事を心に留めて取り組んでいます。また、2ヶ月に一度、マナー研修があります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中の勤務を厚くし、お散歩や買い物のご希望に添えるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご希望に添えるよう、外出・気分転換が出来るように勤務配置を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	私物の衣類を使用していただき、又、着るものに関しては御本人に選んでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様と一緒に料理をしたり、食事を取り、片付けを行っています。	毎日業者から食材が届けられていますが、利用者から要望が上がった時はメニューを替えて食べたいものを一緒に作るようにしています。また、近所の洋食屋で全員で会食した際は、食べやすいようにとの工夫を受け、嬉しい支援もありました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの身体状況に合わせ、食事量や塩分制限を行ったりと支援が図れています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行い、清潔を保つことが図れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時にトイレ誘導を行い、出来る限りトイレ内にて排泄が行えるように努めています。	チェック表を活用した適切な排泄ケアで、パターンの把握ができています。失敗が減って、家族と相談してリハパンから布パンツへ移行した例もあります。夜間は安眠を優先として、本人にあった排泄介助をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度な運動にて対応しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛け・御本人の希望に合わせて対応させていただきます。	拒否がある場合には信頼関係が大切と考え、安心して気持ちよく入浴に応じてもらえるよう、焦らず取り組んでいます。温泉名が入った入浴剤で気分を高めたり、時間を気にせず過ごしてもらえるよう配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の生活歴に合わせた居室空間・寝具にに対応するように心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表や内服薬の説明書を用いて服薬時の薬の理解・支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの施設内での役割が出来ており、又、その行いに対しやりがいをもって取り組んでいただけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族様との連携を図り、外出できる機会を増やし、その方の希望に添えるよう支援が行えています。	散歩コースには、近隣の公園や、春には桜の花見ができるものなどがあります。「映画を観たい」との利用者の声は、家族の協力を得て叶っています。1～2ヶ月に一度は、花見やいちご狩り、三保の松原など、季節に応じたドライブ外出での気分転換を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはセンターにて管理をさせていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様に了解が得られた際には対応させていただいております。又、お客様から御家族様と連絡が取りたいと御要望があった際には職員が取次ぎ対応をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様にとって馴染みやすく、親しみやすい居住空間作りを心掛けています。	大きな窓から差し込む陽射しが心地よく明るい居間は、ソファや畳の間もあり皆で寛げる空間となっています。スロープが設置された広々としたルーフテラスにはベンチもあり、気分転換に外気浴も楽しめ活用されています。風にそよぐ洗濯物やテラスいっぱい広げられた布団はさながら大家族の様相がありました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士で会話ができるように職員が気を配り座っていただく位置等を考え対応させていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には御本人の使い慣れた馴染みのある物を配置し落ち着いて暮らせるように心掛けています。	居室の床に置かれたふたつの箱を収納場所として決めている利用者がいました。見映えよく片付けてしまうのではなく、本人の想いを大切にしたいとの気持ちが込められた居室が作られていることを視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂場等の場所には色のついた印をつけてわかりやすくするようにし対応しています。		